

自治研修あきた

P.2 来年度研修体系
P.3 研修pickup
P.4～派遣職員受講レポート

No.85 令和8年3月発行
秋田県自治研修所 TEL 018(873)7100

アップデートは、自分から

秋田県自治研修所長 和田 聡

2011年に公開されたハリウッド映画「マネーボール」をご存じでしょうか。メジャーリーグの貧乏球団のゼネラルマネージャーが、補強資金がない中で周囲の猛反対を受けながらも、統計学に基づいた独自の選手評価基準（セイバーメトリクス）を用いて他球団で評価されていない選手を集め、球界の常識を覆す快進撃を始める…というようなストーリーです。

県庁には優れたプレーヤーが多いので、人材面での前提は違いますが、厳しい財政状況の中、少ない職員で多くの行政需要に応え、かつ早急に成果を出すことが求められている状況については重なるところがあります。

その突破口として考えられるのはマーケティング思考による行政運営であり、また職員一人ひとりの意識改革、能力開発、スキルアップであり、心理的安全性が担保され、チーム制が機能し、DXが進む職場環境づくりであろうと思います。

自治研修所は、こうした能力習得の場の一つであり、その効果は受講者に止まらず、周囲の職員へ波及し、県庁内の共通言語として根付いていき、やがて組織文化となることで、県庁全体のパフォーマンスが向上していく、と少し大げさですが私は考えています。

その一石として、新年度から新たな研修として実施するのが「成長マインドセット研修」です。行動の根源にあるマインドセットに自ら気づき、変革することを支援し、行動変容につなげます。対象者は、新規採用職員、30歳・40歳になる職員、新任課長級職員です。その効果が受講者から庁内に伝播することを大いに期待しています。

また、自治研修所には自己研鑽に役立つ図書が多数蔵書されています。昨年は、谷副知事から「仕事人としての心構え」「地方財政」「失敗から学ぶ」をテーマに推薦図書をご紹介いただき、大きな反響を呼びました。今後も、図書の充実に努め、購入した図書情報については、適時、掲示板で紹介してまいりますので、是非注目してください。

結びに、本タイトル「アップデートは、自分から」は、Geminiと対話して決めました。私が入庁した頃は、各課に共用パソコンが数台あった程度の執務環境でしたので、隔世の感があります。職員の皆様のアップデートの一助として、自治研修所研修への積極的な参加と図書の利用（貸出手続きは簡単です。）をお待ちしています。

谷副知事 推薦図書(一例)



「心。」
著者：稲盛 和夫
出版：サンマーク出版



「地方財政のヒミツ」
著者：小西 砂千夫
出版：ぎょうせい

令和8年度に自治研修所で実施する研修

組織力向上研修(7科目)

新規採用職員研修【合同】
(新卒者前期/新卒者後期/職務経験者)
3年目職員研修【合同】
NEW 成長マインドセット研修
(新採/30歳/40歳/新任課長級)
メンタルヘルス(ラインケア)研修
管理監督職員研修
人事評価者研修
現業職員研修

市町村職員研修(6科目)

新規採用職員研修【合同】
(新卒者前期/新卒者後期/職務経験者)
3年目職員研修【合同】
主任級研修
監督者級Ⅰ研修
監督者級Ⅱ研修
市町村人事評価者研修

能力開発研修(22科目 および eラーニング)【合同】

主に一般職員向け(14科目)

行政法基礎
NEW 公務員のための民法基礎講座
業務に役立つ法令の読み方
データの見方・活かし方
段取り力向上
伝わる話し方・説明の仕方
業務改善の進め方
発想カトレーニング
成功するプレゼンテーション
クレーム対応力
レジリエンス向上
アサーティブ・コミュニケーション
NEW 秋田の魅力PR
NEW マーケティング思考

主に役付・管理監督職員向け(8科目)

財務3表一体理解・分析法
実務に活かせるEBPM
折衝・交渉力強化
Web会議ファシリテーションスキル向上
ケースで学ぶ問題解決実践トレーニング
コーチング
働き方改革のためのチームマネジメント
リスクマネジメント

eラーニング

- 県職員は応募研修(自己啓発)とし、一定の科目数及び時間以上の受講を推奨する。
- 市町村・団体職員は一定科目数及び時間以上の受講を修了要件とする。

(備考)

- 1 能力開発研修：選択研修(必修)、応募研修
- 2 【合同】：県職員と市町村職員等による合同研修
- 3 一部の研修はオンライン形式での実施



研修プログラム等詳細については、「令和8年度研修概要」をご確認ください。

業務に役立つ法令の読み方

こんな人に
オススメ!



- ・「条例」「規則」「要綱」などの違いを正しく理解したい
- ・法令独特のルールを知って、自信を持って法令文を読み取れるようになりたい

A:「法律若しくはこれに基づく政令又は条例…」

B:「法律又はこれに基づく政令若しくは条例…」

この2つの規定の違いを正確に読み取れるでしょうか？

実は「又は」と「若しくは」の場所が変わるだけで法令文の意味が違ってきます。法令には、日常的な文章とは異なる厳密なルールが存在します。この研修では、思い込みによる解釈ミスや、根拠不明確な事務処理をなくすために、明日から役立つ「法令を読む力」を鍛えます。

- ・「又は」「若しくは」など、感覚で読んでいた部分がクリアになり、法令を正確に解釈する自信がついた。
- ・長文の条文に苦手意識があったが、主語・述語等の構造に着目することで、驚くほどスムーズに読み解けると実感できた。

受講者の声



伝わる話し方・説明の仕方

こんな人に
オススメ!



- ・窓口対応や打合せで分かりやすく納得感のある説明をしたい
- ・自分の説明における傾向や課題を客観的に把握し、改善したい

「伝達ゲーム」などの実習を通して情報を正確に伝えることの難しさを体感し、誰にでも理解できる論理的な構成(三角ロジックなど)や、相手のイメージに訴える手法を使った説明のスキルを学びます。

講師は、コミュニケーション教育の専門家として、テレビや雑誌などのメディアにも登場し、「どうすれば人は動くのか」といった説明と説得の極意について幅広く発信している注目の講師です。豊富な実績に裏打ちされた実践的な指導が特徴です。

- ・相手に「伝える」のは自分が思っている以上に難しいということに気づくことができた。
- ・「わかりやすい説明」の組み立て方を学んだことで、仕事やプライベートなど様々な場面で活用できそうだと感じた。

受講者の声



折衝・交渉力強化

こんな人に
オススメ!



- ・折衝・交渉の具体的なスキルやテクニックを身につけたい
- ・ハードな交渉も相手との信頼関係を構築しながら成功に導きたい

この研修では、交渉のプロセスや事前準備の重要性に加え、具体的な説得手法とそのポイントを学習します。

令和7年度は、身近な題材をテーマとしたケーススタディを実施。個人ワークに加え、グループでのロールプレイングを通じて、折衝・交渉のノウハウを実践的に習得しました。さらに、各グループの感想や意見を共有することで、より一層理解が深まるプログラムとなっており、今後の業務にすぐに役立つことが期待できます。

- ・ロールプレイングを用いたケーススタディがとても役に立った。刺激も多く、様々な角度から物事を考えることができた。
- ・ワークによって、自分の体験として記憶に残る点があった。

受講者の声



派遣職員 受講レポート

令和7年度に派遣された5名の職員から受講レポートをいただきました。

東北自治研修所 主任級職員研修

秋田地域振興局建設部用地課

主事 岩崎 まどか

○はじめに

令和7年6月23日から7月18日までの約1ヶ月間、宮城県富谷市に所在する東北自治研修所において「第13回主任級職員研修」を受講しました。本研修への参加を決めたのは、日々の実務では経験する機会が少なかった「政策形成プロセス」の習得や、近年重要性が増している「EBPM（証拠に基づく政策立案）」の手法を深く学べる点に強い魅力を感じたためです。これらを学ぶことで行政職員としての視野を広げ、主任級職員に求められる役割を再認識し、実務に生かしていきたいと考え研修に臨みました。

○東北自治研修所について

東北自治研修所は宮城県富谷市に位置し、東北6県の県および市町村の職員を対象に、高度な専門知識や実務能力の習得を目的として設置された共同研修施設です。今回受講した「第13回主任級職員研修」には、東北各県から計24人の職員が参加しました。参加者の年齢層は20代前半から30代後半と幅広く、様々な部署で経験を積んできた同世代の職員が集まりました。なお、東北全県の参加者が揃うのは約10年ぶりだったそうです。

○研修内容について

<全体>

研修カリキュラムは専門講師による講義と、それに基づく実践的な演習で構成されていました。講義は午前・午後の二部構成で、グループワークが日程の半分以上を占めるなど、アウトプットを重視した内容となっています。また、毎朝研修生が交代でスピーチの発表・録画・再生・講評を行う「スピーチ演習」もあり、自己表現力を磨く機会となりました。

研修科目はコミュニケーション、政策形成、地方自治法、政策法務など多岐にわた

りましたが、特に注力したのは地域経済活性化をテーマとしたEBPM演習です。私たちの班は富谷市の地域経済循環に着目し、統計データから導き出した仮説を検証するため、富谷市役所およびJAふくしま未来への現地調査（フィールドワーク）を実施しました。市役所では基盤産業振興の現状を、JAでは特産品ブルーベリーの販路拡大策について直接ヒアリングを行い、情報を収集しました。この調査を通じて、データだけでは見えなかった「地域外への支出超過」という富谷市の課題の深さを肌で感じるとともに、これが東北地方の自治体全体で見られる共通の課題であると認識することができました。最終日の発表に向けて議論を重ねた結果、私たちのプレゼンテーションは優秀レポートに選出され、機関誌に掲載されるという成果を得ることができました。



地域経済活性化のメンバーと
フィールドワークにて

○研修以外について

<寮生活・食事>

寮内は男女別のフロアとなっており、女性の参加者は私を含めて5人でした。夜はフロアの共有スペースで共に課題をこなしたり、談笑したりと、程よい距離感を持って自由に過ごすことができました。

食事については、食堂の昼食は食券制で自由に利用できますが、朝食と夕食は事前予約制かつメニューが種類だったため、自身で用意したり外食したりする人が大半でした。フロアにはキッチンや調理道具が一式揃っており、近隣のスーパーで食材を

購入して自炊をするなど、自身のライフスタイルに合わせて工夫できる環境が整っていました。

<休日の過ごし方>

土日は講義がないため、各自リフレッシュに充てることができます。研修所の所在地が宮城県ということもあり、近隣県の参加者の多くは週末に帰宅していましたが、届け出をすれば外泊も可能なため、それぞれ自由に休日を過ごしていました。私は仙台市内のカフェ巡りや松島町への観光を楽しんだほか、金曜日の夜には研修生同士で連れ立って仙台の街へ繰り出すなど、充実した時間を過ごしました。また、日曜日の夜から寮生活が再開するため、持ち寄ったデザートシェアしながらみんなでテレビを観るなど、リラックスしたひとときを過ごすことができました。



平日の夜にはボウリング大会も行われました

○学びと気づき

研修を通じて得た最大の成果は、異なる行政文化や価値観を持つ他自治体職員との交流です。グループワークでの議論を通じ、自身の考えを論理的に伝える能力や、多様な意見を尊重しながら結論を導くスキルの重要性を痛感しました。ここで築いた東北各県の仲間とのネットワークは、今後の業務を進める上でも非常に心強い支えになるものと考えています。特に女性の研修生同士の絆は深く、研修終了後も盛岡で集まって近況報告を行うなど、今後も長く続くであろう大切なコミュニティを築くことができました。



女性の研修生メンバーと

○おわりに

一ヶ月間にわたる長期の研修生活は、行政職員としての自覚と責任を再認識するとともに、自分自身のあり方を見つめ直す貴重な時間となりました。現所属に赴任した直後の慌ただしい時期であったにも関わらず、快く送り出してくださった職場の皆様、熱心にご指導いただいた研修所の講師や職員の皆様、そして苦楽を共にした13期の同期たちに、心より感謝申し上げます。

ここで得た知見や刺激的な出会いは、私にとって大きな財産です。研修で学んだ視点を日々の業務に少しずつ取り入れながら、今後も周囲と協力して一つ一つの課題に誠実に向き合い、行政職員としてより良い仕事ができるよう努めてまいります。



修了式にて

東北自治研修所 中堅職員研修

千秋学園

主査 鈴木 崇文

○中堅職員研修について

この研修は、東北六県の各県市町より集いし脂の乗った中堅職員が、およそ一か月半にわたり宮城県富谷市にある東北自治研修所にて寮生活を共にしながら、次世代リーダーに求められる知識やスキルの習得を目指すものです。

私が参加した第216回は、男性12名、女性5名の計17名で、最年少は29歳、最年長は44歳と幅広い年齢層で構成されたメンバーでした（ボリュームゾーンは30代前半）。

○研修の内容

研修カリキュラムは、大きく分けて「法律科目」、「政策戦略科目」、「能力開発科目」の3つで構成されています。

まず、「法律科目」では、民法及び行政法について座学形式の講義にて基礎的知識を習得した上で、事前作成したレポートをもとに、グループで事例研究を行うゼミナール形式の授業を受けます。

事前レポートを作成する際に出される事例は、実際の判例をアレンジされて作られていることから、ただ法律の条文や判例を調べて回るだけでは足りず、自分なりの法的解釈を加えないと作成できないものも多いため、手間と労力はかかりますが、公務員にとって必要不可欠な法的思考力を磨くことができます。

「政策戦略科目」では、ある自治体の状況をもとに、いかなる政策を立案すれば地域社会を持続、そして成長させていくことができるかについて、グループ研究を行います。この科目こそこの研修における中核となるもので、数ある研修科目の中で最も多くの時間が充てられるものです。

私は若者の移住・定住促進を図るための政策研究グループに所属しました。一か月以上に及ぶ長丁場の作業となるため、他のグループ員と時に助け合い、時に衝突し、時に励まし合いながら政策を組み立てていくのはとても大変ではありますが、研修最終日に研究成果を発表し、講師より講評を

いただいた際には、心の中が達成感でいっぱいとなりました。今後、チームで業務を円滑に遂行させていく上での良い模擬演習になったものと確信しております。

「能力開発科目」では、効果的なコミュニケーションの取り方や危機管理、組織力向上のためのインバスケットなどについて学びます。

その一環で行われるスピーチ演習はこの研修の名物の一つであり、皆の前でスピーチを行っているところを録画され、その映像を眺めながら講師や他の受講生より講評を受けるというものです。研修開始後真っ先に行われるため、受講生はスタート早々中々ハードルの高い体験をすることになります。最初は緊張しながらたどたどしく話していた自分が、他の科目でのグループ演習の発表などにより人前で話す経験を重ねていく中で自信をつけて、徐々に上達していく様を自分自身で感じることができるのも、この演習の醍醐味の一つです（スピーチ演習は研修期間中、何度も行われます）。



政策研究グループ員と現地視察先にて

○寮生活について

受講生全員が東北自治研修所内にある青葉寮に入寮し、研修期間中、寝食を共にします。ただし、部屋はビジネスホテルタイプの個室となっており、プライバシーはしっかりと確保されております。

各階にはキッチン付きの共用の談話室があるため、放課後には受講生が持ち込んだ地酒やおつまみ、各人が腕によりをかけて作った郷土料理などが振る舞われる懇談会が毎夜のように開催されました。私も秋田

県産の日本酒を多数、手土産として持参しましたが、秋田のお酒はどれもお米の風味や甘みを感じられてとても飲みやすいという評判をいただいて、大変誇らしい気持ちになりました。

休日には、他の受講生たちと外にお酒を飲みに出掛けたり、近場に観光に行くこともありました。その中でも特に思い出深いのが塩竈観光で、海の駅で太平洋の美味しい海産物を堪能した後、オープンしたばかりのフォレストアドベンチャー・塩竈にて人生初のジップラインを体験しました。

自然豊かな森の中で、とても刺激に満ちた体験をすることができますので、今後、東北自治研修所で研修を受講する方々には、是非とも行っていただきたいおすすめスポットです。



休日の一コマ

〇おわりに

これは余談になりますが、秋田県（県内市町村からも含め）は他県に比べて、受講する方の数が総じて少ないそうです（東北自治研修所職員の方から伺いました。ちなみに、私が参加した第216回も秋田県からは私一人だけでした。秋田県からの受講者ゼロという回も多いそうです）。

これは受講した身としては、とてももったいない状況だと感じます。約一か月半という短期間でありながら、様々な知識やスキルの習得に加え、他自治体職員とのネットワークも構築できる大変素晴らしい研修でございますので、積極的に受講していただければと思います。

最後に、研修受講の機会をくださった関係者の皆様、快く研修に送り出してくださいました職場の皆様、研修期間中大変お世話になった東北自治研修所職員の皆様すべてに対し、厚くお礼申し上げます。



寮での懇親会の一コマ



修了式

自治大学校 第1部課程第145期

自治研修所

主査 三浦 真幸

○はじめに

令和7年10月20日から令和8年3月6日までの約4ヶ月半、東京都立川市にある自治大学校の第1部課程145期に派遣していただきました。

本課程には、北は北海道から南は沖縄県まで、全国の自治体から42名もの研修生が集結しました。出発前は、長期間にわたり職場や家を離れることへの申し訳なさや、全国から集まる精鋭たちの中で自分がやっていけるのかという不安、そして初めての全寮制生活への緊張など、様々な感情が入り混じっていました。しかし、年齢や職務経験、抱える地域課題も多種多様な同職の方々と共に学び、語り明かしたこの期間は、私の公務員人生のターニングポイントとも言える、非常に濃密でかけがえのない時間となりました。



部屋から見た校舎

○視座を高める講義

研修の前半は、各種法制課目、地方自治の基本制度から、国が推し進める最新の政策動向まで、自治大学校でこそ実現できる、第一線で活躍される講師陣による質の高い講義が連日行われました。

日々の業務に追われていると、どうしても自分の県や所属する部署の枠組みの中だけで物事を考えてしまいがちです。しかし、全国的な視点から地方自治の現状を俯瞰する講義を受け、さらに他自治体の取り組み事例に触れることで、いかに自分の考え方が狭かったのかを痛感しました。秋田県の現状を相対化し、客観的な視点から課題を見つめ直すための、確かな土台を築くことができたと感じています。

○正解のない問いに挑んだ政策立案演習

本研修における最大の試練であり、最も成長を実感できたのが、グループワークで行う「政策立案演習」です。私の班は、現在の地方自治体が直面する最も切実なテーマである「行政経営」に取り組みました。

人口減少に伴う収収減や職員不足が加速する中、限られた経営資源をいかに最適配分し、持続可能な行政運営と住民サービスの向上を両立させるか。これは、どの自治体にとっても「正解のない問い」です。

演習では、全く異なる自治体から集まった班員たちと議論を交わしましたが、前提となる財政規模や組織風土が異なるため、最初は意見を一つにまとめることすら困難を極めました。ときには、夜遅くまで研修室や談話室にこもり、妥協することなく激しい議論をぶつけ合いました。

幾度となく議論が暗礁に乗り上げ、頭を抱える夜もありましたが、班員と知恵を絞り出し、無事に最終発表を終えた時の達成感、忘れることはありません。

○余暇のリフレッシュと、一生の財産となる「全国の仲間」

自治大学校の最大の魅力は、何といても全国から集まる同期の研修生との強い絆です。全員が同じ寮で生活を共にするため、日中の厳しい演習が終わった後も、夜の談話室には自然と人が集まりました。それぞれの職場の悩みや、地元への熱い思いを語り合った夜の時間は、もう一つの「裏講義」とも呼べる有意義なものでした。

また、息抜きとして同期の仲間たちと過ごした、放課後や休日も大切な思い出です。特に印象深く残っているのが、月島での屋形船です。日中の張り詰めた政策論議から

離れ、湾の美しい景色を眺めながら、船の上でもんじゃ焼きを囲みました。一緒に鉄板をつつきながら、お互いのプライベートの話や地元の自慢話に花を咲かせ、心から笑い合ったことで、結束力はさらに強固なものになりました（屋形船の写真は撮り忘れました）。

ここで寝食を共にし、苦楽を分かち合った全国の仲間は、研修を終えた今でも頻繁に連絡を取り合う、私の公務員人生における最大の財産です。



最終日、きれいに片付けられた談話室



放課後にジンギスカン屋へ

〇おわりに

今回の研修で得た「幅広い知識や視野」と「全国に広がる人的ネットワーク」は、決して自分だけのものに留めず、今後の秋田県発展のためにしっかりと還元していきたいと考えています。

最後に、長期間にわたり快く送り出してください、留守を全面的にカバーしてくださった職場の皆様、家族に、この場を借りて深く感謝申し上げます。

また、この記事を読んでいる県職員の皆様の中には、今後の派遣を迷われている方もいらっしゃるかもしれませんが、それぞれの事情はあると思いますが、そこを乗り越えてでも行く価値のある、成長と出会いが待っています。機会があればぜひ、迷わず手を挙げてみてください。心よりおすすめいたします。

自治大学校 第1部課程第145期

自治研修所

主査 小河原 信秀

○はじめに

当初は別の研修を希望していたのですが、人事課からお声がけいただき、自治大学校で研修を受講する機会をいただきました。

自治大学校のWebページでも研修計画は公表されているのですが、それだけでは分からない、研修の内容、寮生活の様子を紹介します。

○自治大学校について

自治大学校は総務省が設置した研修所で、立川市にあります。研修棟と寮が併設されており、研修生は寮で共同生活を送りながら研修を受講します。

自治大学校では様々な研修が実施されていますが、第1部課程は、主に都道府県や政令指定都市、中核市の職員を対象としている研修です。

私が受講した145期は、全体で42人、北は北海道から南は沖縄県まで幅広い地域から研修生が集まりました。

○研修の内容について

第1部課程では、地方公共団体の業務の基盤となる法制課目、政策形成能力を高めるための公共政策課目、管理職としてのマネジメント能力養成等に資する行政経営課目など、様々な講義を通じて実務的、実践的な知識を習得します。

研修前半（10月～12月）は憲法、民法、行政法、地方自治法、地方公務員制度、地方税財政制度といった法制課目、後半（1～3月）は政策提言を行う「政策立案演習」を中心として、日程が組まれています。

個人的に印象に残った授業・演習として、次のものを紹介します。

・地方公務員制度

講師は総務省OBの丸山淑夫先生。授業は先生が教科書の重要な箇所を話して行くので、そこにペンで下線を引いていくというクラシカルなスタイルで進んでいきます（これが結構頭に残ります）。並行して

地方公務員制度について調べ、政策提言をするという5、6人程度のグループでの演習が行われます。

感銘を受けたのは、最終講義日に先生のこれまでの職務経験を踏まえたエールを貰ったことです。自分が努力して作った仕事はどうにもならない事情で日の目をみない、そういった経験を踏まえた含蓄のある言葉でした（聴いてみたいかたはぜひ研修に応募してください）。

・政策立案演習

5、6名で編成される班毎に政策提言のテーマ、提言先の自治体を選定し、最終的に報告書としてまとめます。卒業式の前日には、外部から招聘された教官や自治大に所属する教官を前にして発表を行います。

現状や課題を分析するために、先進的な取組を実施している自治体への調査も行います。千葉県庁にお話を聞きに行ったり、現地視察して立案を進めていきました。

また、班には外部指導教官が1人つき、定期的に指導があります。私たちの班の担当教官は総務省キャリアOBの方で、とても鋭い質問をされる方でした。いただいた質問を通じて提案の内容を具体化していくことができ、大変勉強になりました。

私の班は途中まで中々提案の解像度が上がらず苦労しましたが、自分の発案で提案の具体化を進めることができたことが今後の自信につながりました。発表後に内外の教官から有意義なフィードバックを貰えることもこの演習の魅力です。



川口市の都市農業（植木農業が主）について考えました

そのほか、防災や、地域交通、生成AI活用、医療福祉、まちづくりなど、地方自治に関わる様々なトピックスについて、その分野で活躍されている専門家の方を講師

とした講義が受けられます。自分の担当したことのない業務についても知見を広げることができたのは、今後様々な角度で物事を見るために役立つと思いました。

○研修以外について

・寮生活

フロア毎に共有スペースとして設けられている談話室に集まって飲んでいる人が多かったです。毎日来る人もいれば、ほとんど来ない人もいました。

・食生活

平日の昼食は、学校内の食堂もあるのですが、近くの路上で弁当販売がされています。近くの中華料理店の中華弁当や、地元で有名な洋食屋の弁当など、様々な弁当が売っていました。

夕食は、立川駅周辺の飲食店に行くことが多かったです。特に、立川には6軒ほどのスパイスカレー屋があり、それぞれ個性があっっておいしく、足しげく通っていました。授業が早く終わる日は足を伸ばして恵比寿などにも行ってみました。様々な食が楽しめるのも自治大生活の楽しみの一つです。



ある日のスパイスカレー

・休日の過ごし方

東京にいることの利点として、日本各地へのアクセスが良いことが挙げられます。そこで、休日はできるだけ様々な場所に観光に行ってみることにしました。熊野古道や忍野八海、軽井沢、柿田川公園...メジャーなところからマイナーなところまで色々行ってみましたが、必ずインバウンド

観光客がいました。各地での細かなインバウンド対応を見ることができ面白かったです。

また、登山が趣味の研修生と一緒に登山にも行きました。山梨の大菩薩嶺で富士山を見ながら稜線歩きをしたり、東京の山は頂上に飲食店がある（しかもウマイ）という事実カルチャーショックを受けたりしました。



ある日の谷川岳

○おわりに

4か月という自治大生活、30代後半になって学校生活をまた味わうとは思っていませんでした。終わってみて一番思ったのは、様々な刺激を受けながらある程度自分の自由になる時間を過ごすことで、自分の得意なところ、弱いところを見つめなおすいい機会となったことです。

一度立ち止まってこれからの県庁人生について前向きに考えてみる機会として、自治大学校はおススメです。

自治大学校 第1部・第2部特別課程 第50期

デジタル政策推進課

主任 佐藤 小春

○はじめに

県職員は定期人事異動があり、人事異動のたびに全く異なる分野や環境におかれ、業務の遂行に必要な知識や能力不足を感じていました。

そのような中、自治大学校への派遣の機会を頂きました。ついていけるか不安でしたが、様々学んで成長したい、1ヶ月間東京生活を満喫したいと思い、受講を決断しました。

○自治大学校について

自治大学校は総務省が設置した研修所で、東京都立川市にあります。

研修棟と寄宿舎が併設され、寄宿舎で共同生活を送りながら研修を受講します。

○第1部・第2部特別課程について

第1部・第2部特別課程は、都道府県や市町村の女性職員限定の研修です。私が受講した50期は、北海道から沖縄県まで全国から74人が集まり、令和8年1月29日から2月27日まで約1ヶ月間共に過ごしました。

50期の平均年齢は40代で、係長クラスが多めでしたが、同年代の参加者も多く、様々な方と交流することができました。意外と子育て中の方も多くいました。

○研修内容について

事前課題として、憲法・民法・行政法・地方自治制度・地方公務員制度・地方税財政制度についてeラーニングでの学習のほか、事例演習の事前課題がありました。

入校してからは、講義、事例・ディベート演習、特定政策課題レポート作成で構成された研修でした。

講義は、幹部職員として必要な教養を身につける総合教養、政策形成能力及び行政経営、政策立案や最新の政策課題などの講義を通じて、実務的、実践的な知識を習得します。全国トップクラスの講師による講義を聞くことができ、大変貴重な機会となりました。多くの科目がありましたが、共

通して「人口減少」「DX」がキーワードとなっていたことが印象的でした。

事例演習は、「地域防災」及び「こども政策」の2つについて、先進自治体の事例におけるポイントや所属自治体での課題・解決策等をグループで検討しました。研修生が所属する自治体により背景や特徴が異なるため、同じ課題でも様々な方向から考えることができました。

ディベート演習では、特定の議題について肯定と否定の立場に分かれて行いました。自分たちの立証のみならず、相手側からの立証の確認なども予想して相互主張のディベートストーリーを組み立てなければならず、結構大変な作業でした。ディベートも少人数のグループで行うものであり、意見がぶつかることもありましたが、同じグループの研修生と協力しながら取り組みました。

特定政策課題レポート作成は孤独な作業でした。5つのテーマから1つ選択し、所属自治体に対して政策提言を行う想定で作成するものです。国の政策、県の現状・課題の抽出、政策提言、ロードマップなど8000~12000字でまとめるのがとても大変で、研修生みんなが苦戦していました。外部教官からのアドバイスも得ながら、政策立案の方法を学ぶことができました。

○研修以外について

<寮生活>

研修中は寄宿舎での寮生活を送ります。個室でビジネスホテルのシングルルームのようなイメージです。ユニットバスもありますが、週に2日大浴場も入れました。研修なので、広めのデスクと棚も用意されています。

74人の研修生が3フロアに分けられ、フロア毎に設けられている談話室に毎日誰かが集まってご飯を食べていることが多いです。外食する日もあります。談話室の利用頻度は人それぞれ。私のフロアは面白い研修生が多く、和気藹々として、楽しみつつも自分のペースを大事にできる雰囲気です。寮生活を送ることができました。

<食生活>

学校内に食堂があり、平日の朝・昼・夜営業しています。私は昼食しか利用したことないですが、価格は600円で栄養バランスの摂れる食事です。朝はゆっくりしたいので、パックご飯・即席味噌汁などを談

話室でぱっと食べていました。

夕食は同じように談話室で食べたり、外食したりと日によって様々でした。



素敵な居酒屋での一コマ

<休日の過ごし方>

土日祝日は休日で、自由に過ごすことができます。単独行動もあれば、他の研修生と一緒にどこかに行くこともあります。帰省する方もいました。

私は研修生と「東京といえば」的な観光スポットや、ディズニーシー、鎌倉観光、高尾山、パワースポット巡り、関東地方在住の地元の友達と栃木へ厄払い（今年本厄です）、いちご狩りなど行ったほか、一人で買い物など楽しみました。土日は必ずどこか遊びに行っていました。



高尾山での一コマ。天気最高でした

〇おわりに

自治大学校へ送り出してくれた職場の皆様、差し入れを送っていただきました校友会の皆様にご感謝申し上げます。嫌な顔せず1ヶ月間送り出してくれた夫にも感謝です。

自治大学校では素敵な出会いに恵まれ、充実した研修生活を送ることができ、レポートでは書ききれないほど楽しく、仲間と共に大きく成長することができたと思います。（余談ですが、1ヶ月間家を空けていたことで、全く料理しなかった夫が料理するように成長していました(笑)）

卒業してからも研修生とのつながりを大切に、秋田県のために尽力したいと思います。



卒業パーティーでの一コマ



無事に卒業